

## 船舶事故調査報告書

平成23年2月17日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 山本 哲也

委員 根本 美奈

事故種類	火災
発生日時	平成22年2月1日 11時25分ごろ
発生場所	宮城県石巻市船越漁港北西方沖 雄勝船越港西防波堤灯台から真方位337° 1.1海里付近 (概位 北緯38° 33.1′ 東経141° 30.0′)
事故調査の経過	平成22年2月2日、本事故の調査を担当する主管調査官（仙台事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等 乗組員等に関する情報
	漁船 第八伊勢丸、2.4トン MG3-40184（漁船登録番号）、個人所有 8.45m(Lr)×2.50m×0.72m、FRP ディーゼル機関、76kW（漁船法馬力数）、平成2年7月30日 船長 男性 73歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士 免許登録日 昭和49年9月5日 免許証交付日 平成22年2月10日 (平成26年1月19日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	全損
事故の経過	本船は、船長1人が乗り組み、船越漁港北西方沖で操業中、主機付近から異音が生じたため、船長が、主機にトラブルが発生したと思い、主機を停止して漂流し、自宅へ僚船にえい航を依頼するよう連絡した。 船長は、船首甲板で漁具等の片付けを行っていたが、僚船が来援したことから、船首甲板でえい索の準備をし、平成22年2月1日11時25分ごろ、船尾方を振り向いたところ、操舵室付近から白煙が出ていたので、操舵室に戻って機関室内を確認しようと思ったが、白煙が黒煙に変わったため、危険を感じて僚船に移った。 本船は、その後炎上したが、船長の連絡で来援した僚船約15隻で消火活動が行われて鎮火した。
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北北西、風速 約2.0m/s、気温 約4.6℃ 海象：平穏
その他の事項	本船は、操舵室内から機関室へ出入りするようになっていた。 最も激しく焼損していた機関室左舷側付近には、配電盤が設置されており、配電盤内の電気配線に短絡痕が認められた。 配電盤は、バッテリーから電気が供給されており、主機停止時にも通電

	<p>状態となっていた。</p> <p>本船は、建造から20年たっており、電気配線に青錆が発生していた。</p> <p>本船は、操業時、主機を中立状態とし、電磁クラッチを介して揚網用油圧ポンプと接続していたが、時々、電磁クラッチのベアリングが摩耗して異音を出していた。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>あり</p> <p>なし</p> <p>本船は、船越漁港北西方沖で漂泊中、機関室に設置された配電盤内の電気配線が短絡したため、発生した火花で配線被覆材が着火して出火した可能性があると考えられる。</p> <p>船長が適切な時期に点検を行って電気配線を換装していれば、本事故の発生を防止できた可能性があると考えられる。</p> <p>船長が、主機付近からの異音に気付いた際、機関室内の点検を行っていれば、火災の発生に気付いて初期消火を行い、本事故の発生を防止できた可能性があると考えられる。</p> <p>主機は、電磁クラッチのベアリングが摩耗して異音を発した可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、船越漁港北西方沖で漂泊中、機関室に設置された配電盤内の電気配線が短絡したため、発生した火花で配線被覆材が着火して出火したことにより発生した可能性があると考えられる。</p>	